

企画展プレスリリース

「椿×名品展 ーふたたび、五浦へ」

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
標記の件につきまして、本書のとおりご案内申し上げます。

1 展覧会名 「椿×名品展 ーふたたび、五浦へ」

- 2 会 期 令和5年4月29日[土・祝]～令和5年6月11日[日]
休 館 日：月曜日
開館時間：午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）

3 展覧会概要（資料2～3ページ参照）

緑の艶やかな葉と可憐な花をもつ椿は、日本原産の花であり、国内だけでも2,000種以上の品種が存在します。一年中葉が青いままの常緑樹であり、冬の寒さを耐え抜く強い生命力をもつことから縁起のよい木とされ、吉祥のモチーフとして着物の柄や陶器や漆器の意匠に表され、さらに茶道、華道に用いられる花木として重宝されています。また、「日本書紀」には神聖な呪木として登場し、「万葉集」にも詠まれるなど古くから日本人に親しまれてきました。

江戸時代には琳派をはじめ多くの作家たちによって絵画や工芸などの題材に用いられます。近代以降も日本画、洋画、工芸などの分野で多くの作家たちが椿を表現し、数多くの名品が生まれています。身近にありながら日本人の美意識や心に語りかけてくるような魅力をもった椿は、画家の個性により豊かな表現の作品として次々と誕生していきました。

本展は、椿絵のコレクションで知られるあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の所蔵から尾形光琳に代表される琳派の工芸作品をはじめ、横山大観、奥村土牛らの日本画、岸田劉生、香月泰男らによる洋画など椿をモチーフにした作品を展示します。

五浦の地は、近代美術の発展に寄与した岡倉天心の隠棲地であるとともに、椿の自生地でもあります。椿に縁の深い当館で、椿の名品を心ゆくまでお楽しみください。

4 出品作品（資料4ページ参照）



奥村 土牛「紅椿」
昭和30年頃(c. 1955)

《問い合わせ先》

茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083
TEL:0293-46-5311 FAX:0293-46-5711 E-mail:kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp
展覧会担当:木内 智美(きうち ともみ)／広報担当:大津 友美(おおつ ゆみ)
※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介いたします。
(<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>)

1 展覧会名 「椿×名品展 一ふたたび、五浦へ」

2 会 期 令和5年4月29日 [土・祝] ～令和5年6月11日 [日]
休 館 日：月曜日
開館時間：午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）

3 会 場
茨城県天心記念五浦美術館 展示室A・B・C

4 主催等
主催：茨城県天心記念五浦美術館
特別協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

5 後 援
朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／株式会社茨城放送／NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／
東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／北茨城市／北茨城市教育委員会

6 入館料
一般730(630)円／満70歳以上360(310)円／高大生520(420)円／小中生320(210)円
※()内は、20名以上の団体料金
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方お
よび付添いの方1名は無料
※土曜日は高校生以下無料
※4月29日(土・祝)は満70歳以上の方無料

7 本展のみどころ

- (1) 平成19年に開催し人気を博した椿に因んだ展覧会が、ふたたび五浦の地へやってきます。16年の時を経て展示される椿の名品の数々を鑑賞いただけます。
- (2) 椿絵のコレクションで知られるあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の所蔵より、伝 狩野山楽の屏風や尾形光琳に代表される琳派の工芸作品など江戸時代の作品をはじめ、横山大観、奥村土牛らの日本画、岸田劉生、香月泰男らによる洋画など椿をモチーフにした名品85点を展示します。
- (3) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の所蔵作品85点に加えて、永田春水の日本画、岸田劉生、須田国太郎の油彩画など茨城県近代美術館が所蔵する椿絵の作品も展示します。岸田劉生は同時期に描かれた椿の油彩画2点を比較しながら鑑賞いただけます。
- (4) 茨城大学准教授の片口直樹による椿の油彩画と横田将士とのコラボレーションによる映像作品を館内各所に展示する「片口直樹 一赤い椿白い椿と落ちにけり」を同時開催。椿に魅せられた片口、横田によるアートもお楽しみください。

8 広報文

- (1) 艶やかな葉と可憐な花をもつ椿は、日本原産の花であり、冬の寒さを耐え抜く強い生命力をもつことから縁起のよい木とされています。また、「日本書紀」には神聖な呪木として登場し、「万葉集」にも詠まれるなど古くから日本人に親しまれてきました。江戸時代には琳派をはじめ多くの作家たちによって絵画や工芸などに椿のモチーフが用いられましたが、近代以降も日本画、洋画、工芸などの分野で多くの作家たちが椿を表現し、数多くの名品が生まれています。本展では、椿絵のコレクションで知られるあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の所蔵から尾形光琳に代表される琳派の工芸作品をはじめ、横山大観、奥村土牛らの日本画、岸田劉生、香月泰男らによる洋画など、椿をモチーフにした作品を展示します。平成19年の展覧会以来、16年の時を経てふたたび展示される椿の名品の数々を心ゆくまでお楽しみください。(377文字)
- (2) 日本原産である椿は、江戸時代には琳派をはじめ多くの作家たちによって絵画や工芸などのモチーフに用いられ、近代以降も日本画、洋画、工芸などの分野で多くの作家たちが椿を表現し、数多くの名品が生まれていきました。本展では椿絵のコレクションで知られるあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の所蔵から椿をモチーフにした名品の数々をご紹介します。(167文字)
- (3) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が誇る椿をテーマとした美術コレクションより、各分野から選りすぐった椿の名品の数々を心ゆくまでお楽しみください。(73文字)
- (4) 展覧会にあわせて椿の名品をさらに楽しんでいただけるよう、現代において椿をモチーフに作品を発表している茨城大学准教授・片口直樹の作品を展示室までの館内各所に特別展示します。(85文字)

9 主な出品作品 制作年順

伝 狩野山楽	「椿梅図」	桃山-江戸初期(16-17世紀)
尾形 光琳	「椿図蒔絵硯箱」	江戸時代(18世紀)
岸田 劉生	「籠椿」	大正13年(1924)
村上 華岳	「椿花図」	大正13年頃(c. 1924)
横山 大観	「雪旦」	大正15年(1926)
安田 鞆彦	「紅白椿」	昭和30年(1955)
奥村 土牛	「紅椿」	昭和30年頃(c. 1955)
熊谷 守一	「春の日」	昭和41年(1966)
香月 泰男	「白椿」	昭和46年(1971)
堀 文子	「椿之図」	昭和57年(1982)

※上記の主な出品作品は、すべてあいおいニッセイ同和損害保険株式会社蔵

※出品作品 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社蔵 85点
茨城県近代美術館蔵ほか所蔵品 4点
(合計 89点)

10 オープニングセレモニーのお知らせ

4月28日(金)14:00より、オープニングセレモニーを行います。

11 会期中のイベント

・ウェブによる申込フォーム

ホームページの URL、または各種チラシの QR コードを読み込み、必要事項を記入してください。

(1) 講演会「恋する椿絵」

- ・講師：野地 耕一郎（泉屋博古館東京・館長）
- ・日時：5月6日[土] 13時30分～（約90分）
- ・会場：講堂（定員 114 名） 事前申込優先、先着順
- ・申込方法：申込フォーム

※申込後のキャンセルほか、当日空席がある場合は申込なしで参加できます。

(2) 同時開催

特別展示「片口直樹 ー赤い椿白い椿と落ちにけり」

茨城大学准教授の片口直樹による椿の油彩画と映像作品(横田将士とのコラボレーション作品)をフリースペースに展示し、「椿×名品展」に花を添えます。

- ・会場：エントランスロビー、展望ギャラリー 等

(3) ギャラリートーク

- ・日時：5月13日[土]、6月4日[日] 各日13時30分～（約30分）
- ・会場：企画展示室 申込不要 ※要企画展チケット

(4) 鑑賞ワークショップ「床の間の美学。畳で日本画鑑賞！」

横山大観の掛軸を間近で鑑賞しませんか。

東京美術学校の校服も試着できます。

- ・日時：4月30日(日) 10時～11時、13時～14時
- ・会場：岡倉天心記念室 申込不要 ※要企画展チケットまたは岡倉天心記念室チケット

(5) ワークショップ「椿を描く」

- ・日時：5月27日(土) 10時～、13時30分～
- ・会場：講座室 ※各回定員 20 名程度、要企画展チケット、当日先着順

(6) オープンワークショップ「椿の花で美術館を飾ろう」

折り紙で椿の花を作り、美術館に椿の花を咲かせてみませんか。

- ・会場：企画展示室出口(無料、参加自由)

(7) 「来て・見て・発見！アートツアー for kids」

- ・日時：5月20日(土) 10時～
- ・会場：展示室、講座室 ※小中学生と保護者 5 組[1 組 4 名まで]、要事前申込、先着順
- ・申込方法：申込フォーム

(8) 映画会

200インチの大画面で懐かしの名作などを上映します。

5月14日[日]：「シェーン」(1953年/カラー/アメリカ)

6月11日[日]：「海よりもまだ深く」(2016年/カラー/日本)

- ・各日：9時45分～、13時30分～
- ・会場：講堂
- ・定員：114名 ※事前申込優先、先着順
- ・申込方法：申込フォーム

【広報用図版】 ※表紙の奥村土牛「紅椿」も提供可能です。



伝 狩野 山楽「椿梅図」
桃山-江戸初期 (16-17世紀)



尾形 光琳「紅椿図団扇」
江戸時代 (18世紀)



横山 大観「雪旦」
大正15年(1926)



尾形 乾山「色絵椿文四方向付」
江戸時代(18世紀)



尾形 光琳「椿図蒔絵硯箱」
江戸時代 (18世紀)



村上 華岳「椿花図」
大正13年頃(c. 1924)



岸田 劉生「籠椿」
大正13年(1924)

※掲載作品はすべて、あいおいニッセイ
同和損害保険株式会社蔵

※図版使用に際しての注意

- ・展覧会の紹介を目的とする内容にのみ使用願います。
 - ・図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工は御遠慮ください。
 - ・図版使用の際は必ずキャプションを明記してください。
 - ・図版はデータでの提供となります。
- 広報担当まで連絡、または右QRコードを読み込んでリクエストしてください。



当館HPへ

【問い合わせ先】

茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083

TEL : 0293-46-5311 FAX : 0293-46-5711

E-mail : kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当：木内 智美 / 広報担当：大津 友美

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介して参ります。